

<http://www.jikei-kidneyht.jp/>

◆ 沿革と医局の概要 ◆

当科は1958年に上田 泰教授が本学において創設された第四内科がその起源となります。上田先生は1959年に大島研三先生らと日本腎臓学会を創設されました。その後、第二内科となり宮原 正教授、酒井 紀教授と継がれ、第四代 細谷龍男教授となり臓器別内科に改組されました。2013年より第五代 横尾 隆教授が就任し、現在の腎臓・高血圧内科となりました。その間、全国に先駆けて経皮的腎生検術、腹膜透析、さらにはIgA腎症の疾患概念の国内導入など、常に日本の腎臓病学を牽引する立場にありました。開局以来50余年を迎える伝統ある教室であり、日本内科学会会長や日本腎臓学会会長4名を輩出しています。

現役医局員の構成は、附属病院常勤39名、長期派遣中30名、大学院生12名、留学中4名、その他（産休育休など）10名、レジデント（専修医）13名で、関連施設数は、附属病院4、公私立病院13、診療所・企業43、透析施設20です。また、同窓会員数（第二内科・腎臓高血圧内科同窓会）は2016年7月現在、362名となっています。

◆ 臨床 ◆

当科ではトータルネフロロジーをモットーとし、

病初期の尿異常から腎不全医療まで、腎疾患診療に関するすべての領域をカバーすべく、日々の診療に従事しています。疾患の種類や病態によらず、患者さんを生涯にわたり一貫してサポートする体制を整えています。

経皮的腎生検では我が国でも有数の歴史があり、これまで約60年間に6,000例を超える実績があります。現在も附属4病院で合わせて年間約300～400例行っています。常時、当科スタッフが自ら病理診断を行い、毎週行われているカンファレンスにより治療方針を決定し、豊富な経験に基づき非典型例にも柔軟に対応しています。

血液透析導入の基幹病院として、附属4病院とも長年にわたる診療実績があり、周辺関連透析施設も含め我が国でも最大規模の透析診療ネットワークを形成しています。相互に連携を密にすることで高い診療レベルを維持し、透析患者の生命予後の改善に寄与しています。透析に伴う長期合併症や併発症による入院治療も、大学附属病院ならではの豊富な診療科に支えられた柔軟な対応を行っています。また、血漿交換療法や各種吸着除去療法などのあらゆる体外循環治療にも日常的に対応しています。附属4病院における腹膜透析療法および腹膜透析+血液透析併用療法ともに我が国でも最古の診療実績と豊富な症例数があります。ブラッドアクセス作成や腹膜透析のテンコフカ